

## 31-0651

日本産及び韓国産アケビ属植物の遺伝子分析

○隆 長鋒<sup>1</sup>, 垣内 信子<sup>1</sup>, 北岡 文美代<sup>1</sup>, 大場 秀章<sup>2</sup>, 御影 雅幸<sup>1</sup>(<sup>1</sup>金沢大院薬,  
<sup>2</sup>東京大学総合研究博物館)

【目的】アケビ科の *Akebia* 属植物は生薬「木通」の原植物で、日局 14 では *A. quinata* アケビと *A. trifoliata* ミツバアケビが規定されている。一方、我が国には両種の雑種とされるゴヨウアケビ *A. pentaphylla* があり、また朝鮮半島や能登半島などには葉裂片が 5～7 枚で形態が典型的なアケビとは異なる植物が自生しており、朝鮮半島産のものは中井によりアケビの変種 **var. polyphylla** とされた。本研究ではこれらの植物分類学的な関係を探るために、分子生物学的方法を用いて検討し、さらに中国で木通として使われている他の植物由来の木通についても検討した。

【方法】植物体及び生薬から DNA を抽出し、PCR 法により核 DNA の ITS と葉緑体 DNA の *trnL/F* 領域を増幅した。PCR 産物を精製し、塩基配列を決定した。塩基配列の違いに基づいて、differential PCR 法のプライマーをデザインした。

【結果および考察】アケビ、ゴヨウアケビ、ミツバアケビの *trnL/F* 塩基配列は同一であった。アケビの ITS 領域は 647bp、ミツバアケビは 645bp で、ゴヨウアケビがアケビとミツバアケビの雑種であることを示唆する重複した塩基配列を示した。ゴヨウアケビの各件体の ITS 領域の PCR 産物の cloning により、ゴヨウアケビはこの領域にアケビまたはミツバアケビと相同あるいは両者の組み換え体の sequence を有すること確認した。従ってゴヨウアケビはアケビとミツバアケビの雑種と考えられた。また朝鮮半島や能登半島に自生する葉裂片が 5～7 枚の植物はアケビに一致した。なお、アケビ及びミツバアケビと同定した検体内でも 1-2 塩基程度の種内変異が認められた。またアケビ属、及びアケビ属以外の原植物に由来する市場品木通も Differential-PCR 法及び RFLP 法により明確に識別できた。